

株式会社クレハ KUREHA CORPORATION

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
株主確定基準日	・定時株主総会 期末配当 3月31日 ・中間配当 9月30日 ・その他必要がある時は、取締役会の決議によってあらかじめ公告します。
公告方法	当社のホームページ (http://www.kureha.co.jp/) に掲載します。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先) 電話お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀1-17-7 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

「単元未満株式の買取制度および売渡（買増）制度」のご案内

単元未満株式（1,000株に満たない株式）につきましては、従来からお取り扱いをいたしております「買取制度」（会社が単元未満株式を買い取る制度）と不足分を売渡して単元株式（1,000株）にまとめていただける「単元未満株式の売渡（買増）制度」を導入しております。

上記の株主名簿管理人の事務取扱場所または同取次所においてお取り扱いをいたしております。（郵送でのお手続きも可能です。）

なお、売渡（買増）制度につきましては、毎年3月および9月のそれぞれ中旬から期末までは受付を停止させていただきます。また、当社が定める一定期間、お取り扱いを停止する場合がございます。

株主の皆様へ

クレハ レポート

第93期事業報告書

2005年4月1日から2006年3月31日まで

株式会社クレハ
KUREHA CORPORATION

ナケレバ、 ツクレバ。

KUREHA

2005年10月1日、[呉羽化学工業株式会社]は[株式会社クレハ]へ。
本社を移転いたしました。新住所：〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに「クレハレポート(第93期事業報告書)」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当期のわが国経済は、輸出・設備投資主導の回復基調のうえ、個人消費にも底堅さが加わりつつありますが、消費の二極化傾向により一部の高額商品等を除いて原燃料価格高騰を製品価格へ容易に転嫁できる環境には至りませんでした。

化学工業におきましては、米国・中国等の景気拡大、為替など輸出環境は比較的良好でしたが、原燃料価格高騰が収まらない一方、海外製品市況には軟調な動きもみられるなど、川下事業分野ほど原燃料価格高騰の製品価格転嫁が難しいなか、内部合理化努力を加速しつつありますが、影響が徐々に企業業績へと及んでまいりました。

当社グループは、このような状況のもとで、当期を初年度とする「新中期経営計画Big Jump(2005年度～2008年度)」(略称:「中計Big Jump」)に沿って、事業ポートフォリオの継続的見直しと集中事業への重点資源投入により定量計画・重点経営課題に取り組んでまいりました。この結果、当期の売上高は前期比4.0%増の1,356億27百万円となりましたが、医薬・農薬の海外・新規展開に係る先行投資負担により、営業利益は前期比5.3%減の97億8百万円、経常利益は前期比5.4%減の91億85百万円となりました。

当期純利益につきましては、本社移転等に伴う固定資産売却益11億12百万円、固定資産除売却損17億22百万円、物流在庫の抜本的見直しに伴う構造改革費用5億73百万円等を計上した結果、前期比15.8%増の51億71百万円となりました。

以上の状況のもと、当期の配当金につきましては、中間配当金を当初予定どおり4円、期末配当金を当初予定の4円に対し1円を加えた5円とさせていただきます、年間配当金は1株につき9円とさせていただきます。

当社グループは、「中計Big Jump」における経営目標として、「常に変革を行い成長し続け、グローバルに通用する戦略的スペシャリティ・カンパニー」の実現を掲げております。

その実現のためには、主要牽引事業への積極的な設備投資および研究開発投資等による業容と利益の拡大、低採算事業の合理化による競争力の強化、事業活動を支える物流機能および本社間接機能の強化に向けて当社グループ全体で取り組んでまいります。

また、コンプライアンス(法令および社会的規範の遵守)を重視し、公正で自由な競争に基づく事業活動、正確で有用な情報の適時適切な開示、地域社会への積極的な貢献、地球環境の保護などにも当社グループをあげて真摯に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2006年6月

代表取締役社長 田中 宏



KUREHA

中期経営計画

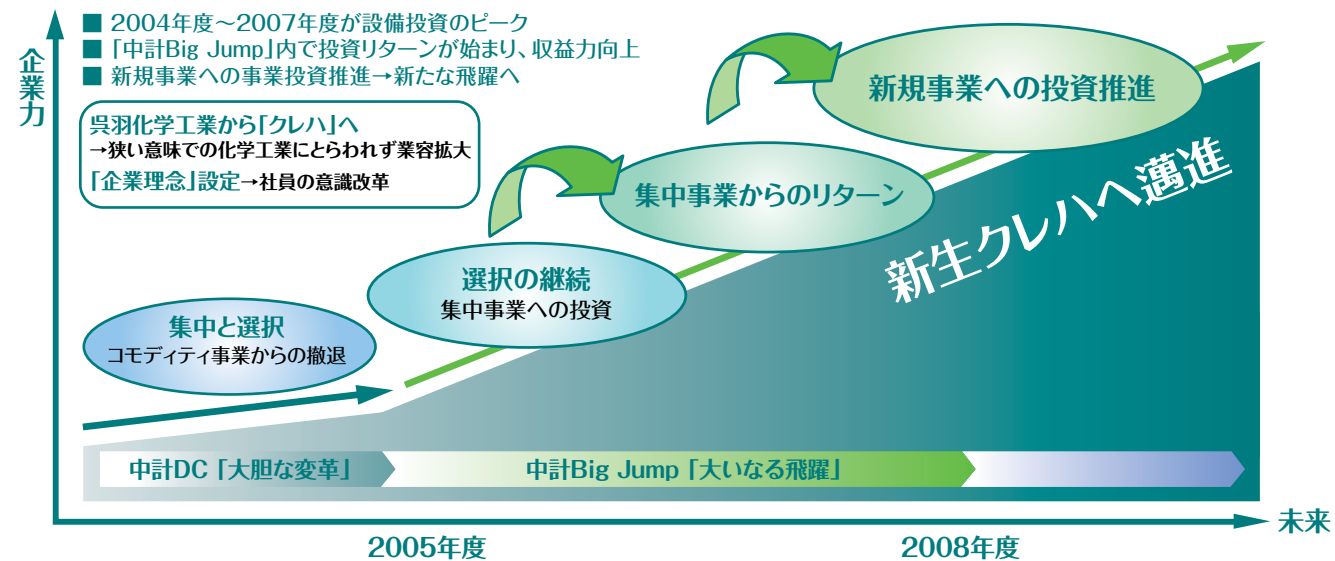
「中計Big Jump」に基づく事業運営

グローバルに通用するスペシャリティ・カンパニーへ

当社グループは、「新中期経営計画Big Jump(2005年度～2008年度)」(略称:「中計Big Jump」)で定めた事業戦略を機動的に実行し、「既存事業の強化と更なる拡大」、「新規事業の早期立ち上げ」を通して、「収益拡大を伴う業容拡大」の実現と企業価値向上を重視した経営を行なっております。

「中計Big Jump」は「大いなる飛躍」を掲げ、スペシャリティ事業による業容拡大と収益の最大化を目的とし、「エクセレント・

カンパニーを目指して挑戦し続けるクレハ」を実現させるための成長戦略であります。「ありがたい姿」として、経営目標を「常に変革を行い成長し続け、グローバルに通用する戦略的スペシャリティ・カンパニー」とし、「収益の拡大を伴う業容拡大」「競争力ある世界的な生産体制の構築」「グローバル化の推進」「設備投資の加速」をより大きなテーマとして設定し、取り組んでおります。

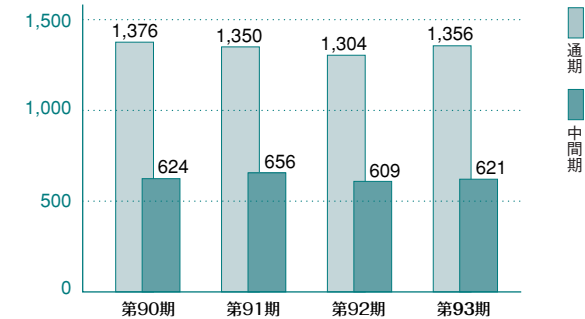


連結財務ハイライト

	第90期 2002年度	第91期 2003年度	第92期 2004年度	第93期(当期) 2005年度
売上高 (百万円)	137,647	135,020	130,400	135,627
営業利益 (百万円)	8,289	9,463	10,255	9,708
経常利益 (百万円)	7,473	8,320	9,705	9,185
当期純利益 (百万円)	1,453	4,183	4,467	5,171
総資産 (百万円)	173,129	173,295	172,727	185,203
株主資本 (百万円)	85,866	91,774	93,062	98,357
株主資本比率 (%)	49.6	53.0	53.9	53.1
1株当たり当期純利益 (円)	7.13	21.45	23.41	27.61
1株当たり株主資本 (円)	442.40	483.12	500.56	535.26

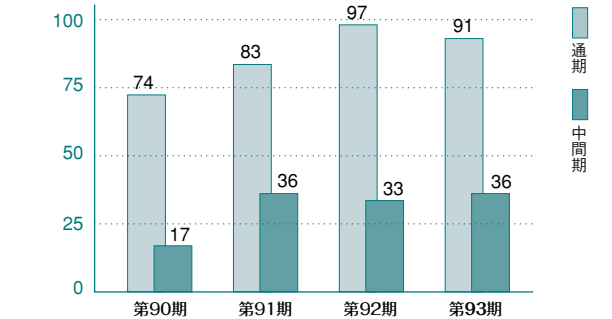
売上高 (億円)

前期比4.0%増となっております。次ページ以降に、セグメント別の営業の概況を記載しております。



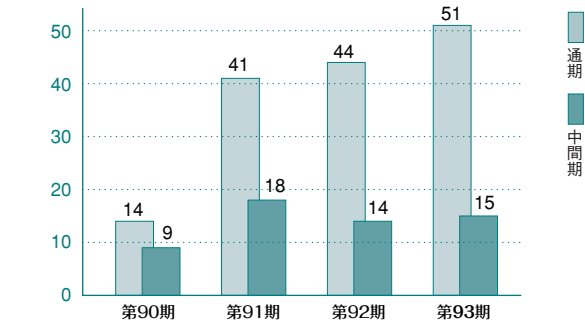
経常利益 (億円)

売上高は増加いたしました。新規・海外展開に係る先行投資負担により、前期比5.4%減となりました。



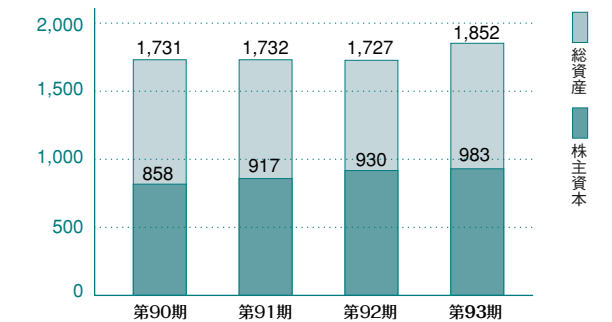
当期純利益 (億円)

経常利益が前期に比べ減少しておりますが、固定資産売却益等により、前期比15.8%増となりました。



総資産／株主資本 (億円)

株主資本は、当期純利益及び投資有価証券の時価評価による増加と、利益処分及び自己株式取得による減少との差引きで、前期末に比べ増加いたしました。



セグメント別 営業の概況

■ 売上高構成比

23.3%

機能製品事業

機能樹脂のうち、PPS樹脂は、自動車用途および電気・電子素材用途の需要拡大により生産能力増強が続いており、米国における合弁事業も好調に推移し、売上げ、営業利益ともに前期に比べ増加いたしました。

ふっ化ビニリデン樹脂は工業用素材用途およびリチウムイオン二次電池用バインダー用途の、機能性コンパウンドは電子材料用途の、それぞれ堅調な需要により売上げは増加いたしました。また、設備・開発等に係る投資負担が大きく、これら製品の営業利益は前期に比べ減少いたしました。また、光学材料については委託加工への切替えによる採算改善を進めております。

炭素製品のうち、球状活性炭については輸出が減少し、炭素繊維については半導体製造用高温焼成炉向け断熱材用途の需要拡大がありました。また、原燃料価格高騰により、これら製品の営業利益は前期に比べ減少いたしました。

また、当期より電気・電子素材用途向けの金属蒸着フィルム製造子会社のセグメント区分を機能製品事業に変更したため、売上げ、営業利益ともに前期に比べ増加いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前期比25.5%増の315億78百万円となり、営業利益は前期比22.9%増の39億23百万円となりました。



PPS樹脂プラント(いわき工場)

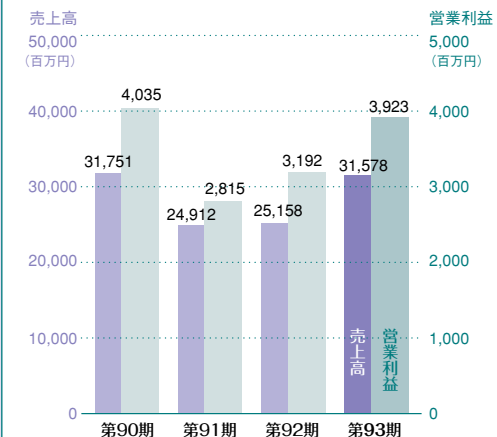


ピッチ系炭素繊維(クレカ)

■ 営業品目

- | | |
|--------------|-------------|
| 機能樹脂 | 炭素製品 |
| ● PPS樹脂 | ● 炭素繊維 |
| ● ふっ化ビニリデン樹脂 | ● 球状活性炭 |
| ● 制電樹脂 | ● 特殊炭素材料 |
| ● 機能性コンパウンド | |
| ● 光学材料 | |
| ● 金属蒸着フィルム | |

■ 売上高/営業利益の推移



化学製品事業

医薬・農業分野では、抗悪性腫瘍剤「クレスチン」は売上げが減少、慢性腎不全用剤「クレメジン」は輸出および技術導出を含めて売上げが増加、農業用殺菌剤「メコナゾール」は世界的な需要拡大が続きましたが、本分野の営業利益は、海外・新規展開に係る先行投資負担の増加により前期に比べ減少いたしました。

工業薬品分野では、か性ソーダ・塩酸等の販売価格適正化の追加策に対して、さらなる原燃料価格高騰によりその効果が相殺されたものの、クロルベンゼン類は家庭用防虫剤用途の需要が減少するなか、立ち遅れていた原燃料価格高騰の製品価格転嫁が追い付いて、本分野の営業利益は前期に比べ増加いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前期比0.9%増の312億94百万円となり、営業利益は前期比13.8%減の34億93百万円となりました。



慢性腎不全用剤(クレメジン)

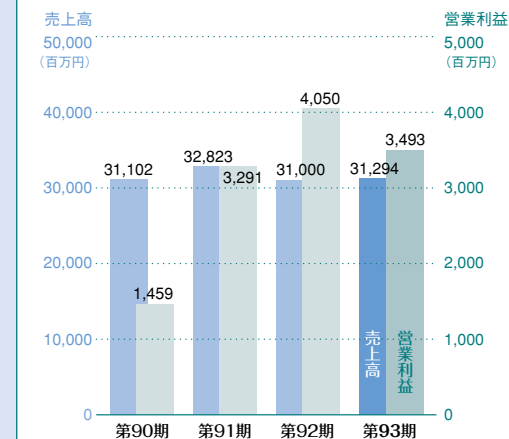


農業用殺菌剤(メコナゾール)

■ 営業品目

- | | | |
|---------------|------------|-----------|
| 無機薬品 | 医薬品 | 農業 |
| ● か性ソーダ | ● クレスチン | ● ラブサイド |
| ● 塩酸 | ● クレメジン | ● DDVP |
| ● 液体塩素 | ● 動物用医薬品 | ● メコナゾール |
| ● 次亜塩素酸ソーダ | ● コバルジン | ● イブコナゾール |
| 有機薬品 | | 農材 |
| ● モノクロルベンゼン | | ● 粒状培土 |
| ● パラジクロルベンゼン | | ● 園芸培土 |
| ● オルソジクロルベンゼン | | |

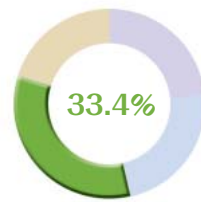
■ 売上高/営業利益の推移



■ 売上高構成比

23.1%

■ 売上高構成比



樹脂製品事業

業務用食品包装材分野では、国内については塩化ビニリデン・フィルム、熱収縮多層フィルム、非収縮多層フィルム、多層ボトルの売上げは減少となり、ハイバリア・ラミネート基材「ベセーラ」の売上げは微増となり、欧州子会社の不振も加わって、本分野の営業利益は前期に比べ減少いたしました。

コンシューマー・グッズ分野では、家庭用食品包装材「NEWクレラップ」は3年連続のリニューアルを実施して販売価格適正化に努め、釣糸「シーガー」は流通在庫調整が一巡し、本分野の営業利益は、前期に大きかった広告宣伝・販売促進に係る投資負担の軽減により前期に比べ増加いたしました。

金属蒸着フィルム、合成繊維等の産業資材分野では、前期に好調だった金属蒸着フィルム製造子会社のセグメント区分を機能製品事業に変更したため、売上げ、営業利益ともに前期に比べ減少いたしました。

輸出については、中国向けの塩化ビニリデン・コンパウンドは現地生産合弁が立ち上がりつつあることから、販売数量の低下を余儀なくされました。また、価格の低下もあったことと、包装機械は前期に輸出が集中していたため売上げが減少し、営業利益は前期に比べ減少いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前期比10.8%減の452億61百万円となり、営業利益は前期比30.4%減の6億7百万円となりました。



釣糸〈シーガー〉シリーズ



〈キッチンさん〉シリーズ

■ 営業品目

食品包装材

- 塩化ビニリデン・フィルム
- 塩化ビニリデン・コンパウンド
- 熱収縮多層フィルム
- 非収縮多層フィルム
- 多層ボトル
- ハイバリア・ラミネート基材

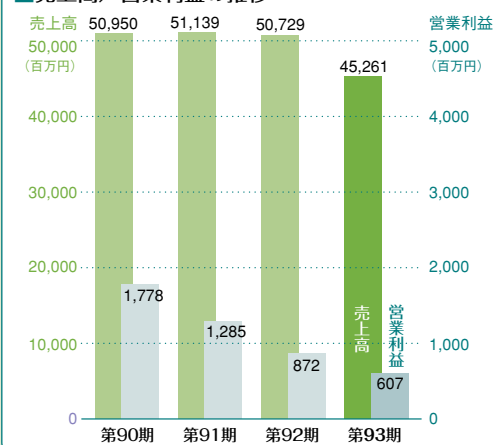
家庭用品

- NEWクレラップ
- 流し台用水切りゴミ袋
- 掃除機用紙パック
- プラスチック製保存容器
- 合成繊維
- ふっ化ビニリデン釣糸

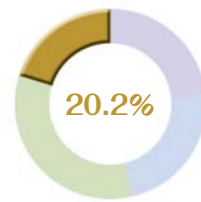
包装機械

- 自動充填結紮機

■ 売上高／営業利益の推移



■ 売上高構成比



その他事業

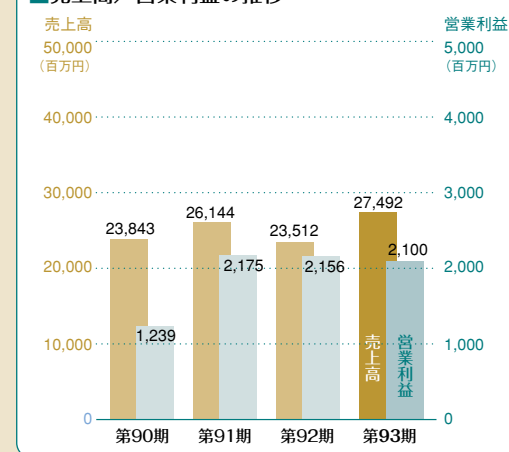
環境関連分野は、環境修復工事、医療廃棄物処理等の増加により、売上げ、営業利益ともに増加いたしました。

建設関連分野は、大型工事の完工により売上げは増加いたしました。資材および外注費上昇により営業利益は減少いたしました。

運輸・倉庫関連分野は、厳しい受注環境のなか売上げを微増といたしましたが、燃料費高騰により営業利益は減少いたしました。

以上の結果、本セグメントの売上高は前期比16.9%増の274億92百万円となり、営業利益は前期比2.6%減の21億円となりました。

■ 売上高／営業利益の推移



「プラザアム」(土浦市)2006年3月竣工 クレハ建設(株)



架装タンクローリー車 クレハ運輸(株)

CORPORATE GOVERNANCE

コーポレート・ガバナンス

新「会社法」が2006年5月1日より施行されたことにより、「会社法」および「法務省令」で取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制および株式会社の業務の適正を確保するための体制、いわゆる内部統制システムの構築が義務付けられました。

これを受けて、当社は2006年5月9日開催の取締役会において、「内部統制システムの基本方針」を以下のとおり定めましたのでお知らせいたします。

内部統制システムの基本方針

〈企業活動の方針〉

当社は、コーポレート・ガバナンスの一層の向上を目指し、以下の「企業理念」、「目指すべき方向」、「行動基準」を内部統制の基本コンセプトにおき、企業活動の指針とします。

企業理念： 私たち(クレハ)は

- ・人と自然を大切にします。
- ・常に変革を行い成長し続けます。
- ・価値ある商品を生み出し、社会の発展に貢献します。

目指すべき方向： 私たち(クレハ)は、エクセレント・カンパニーを目指し挑戦し続けます。

行動基準： 私たち(クレハ)は、地球市民として企業の社会的責任を認識して活動します。

お客様へ：顧客満足を第一に誠意と行動で応えます。

仕事へ：常に進歩と創造にチャレンジします。常に変化に対応し、グローバルな視野を持って行動します。

仲間へ：相互の意思を尊重しチームワークを発揮します。

1. 取締役・従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社およびグループ各社は業務遂行に当たり、法令を遵守し、業務を適正に遂行する体制を確保しています。

- 1) 当社のコンプライアンス体制として、「クレハ・グループ倫理憲章」および「コンプライアンス規程」を定め、当社の役員・従業員は、法令遵守のみに留まらず社会的規範に則って行動することを目指し、コンプライアンス重視の企業風土を徹底すべく体制のより一層の強化を図ります。
- 2) 代表取締役を委員長とするコンプライアンス委員会は「コンプライアンス・ハンドブック」、「コンプライアンス行動基準」をもとに研修等を実施し、コンプライアンスの周知徹底を図っています。
- 3) 法令等に反する行為を早期に発見するために社内および社外(弁護士)に「ホットライン」(コンプライアンス相談・通報窓口)を設置し、法令のみに留まらず社会的規範の遵守に努めています。

- 4) 当社は他部門から独立した代表取締役社長直轄の内部監査部を設置し、コンプライアンスやリスク管理体制を含む会社の内部管理体制等の適切性や有効性を評価検証し、これに基づき改善に関する指摘・提言を行なうことにより、経営効率および社会的信頼度の向上に寄与する体制をとっています。
- 5) 当社は製造メーカーとして重要な課題である「レスポンスブル・ケア活動」(環境保全、保安防災等に関する自主的管理活動)として、環境保全、保安防災、労働安全衛生、製品安全・品質保証、地域交流等の実施計画を策定し、実行しています。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報である各種議事録、決裁書類等については、文書規程等の社内規程に基づき、適切に書面または電磁的媒体に記録のうえ10年間保存し、適正な管理を行なっています。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- 1) 当社は、事業活動に伴い発生するリスクとして、環境、災害、品質、信用、コンプライアンス、情報セキュリティおよびカントリーリスク等のリスクを把握・分析し、リスクの認識、回避、軽減を図る体制を構築します。
- 2) 当社は、環境・安全リスク対応の組織として、環境保全については環境マネジメント・システム(ISO14001)、品質保証については品質マネジメント・システム(ISO9001シリーズ)、労働安全衛生・健康については労働安全衛生マネジメント・システム(OHSAS18001)を導入し、環境保全、品質保証、労働安全衛生の継続的な改善を行なっています。
- 3) 不測の事態が発生したときは、非常事態対応規程に基づき対策本部の設置等の対応を行ない、人的安全を確保し、経済的損失を最小限に留める体制を整えています。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制

- 1) 当社は、取締役会を原則月1回開催し、経営上の意思決定、業務執行状況の報告を行なっています。また経営全般にわたる中長期経営戦略および基本方針について審議し、意思決定に資することを目的に、経営会議を原則月2回開催しています。
- 2) 具体的な業務執行については組織規程、権限基準規程において、分掌業務およびその業務別・責任者別の権限について詳細を定め、効率的な運営を図っています。

5. クレハ・グループにおける業務の適正を確保するための体制

- 1) クレハ・グループの業務の適正を確保するため、グループ共通の「クレハ・グループ倫理憲章」を定め、これをもとにグループ各社で「コンプライアンス規程」および「コンプライアンス相談窓口取扱規程」を定め、国内外の法律、社会的規範およびその精神を遵守するとともに社会的良識を持って行動しています。

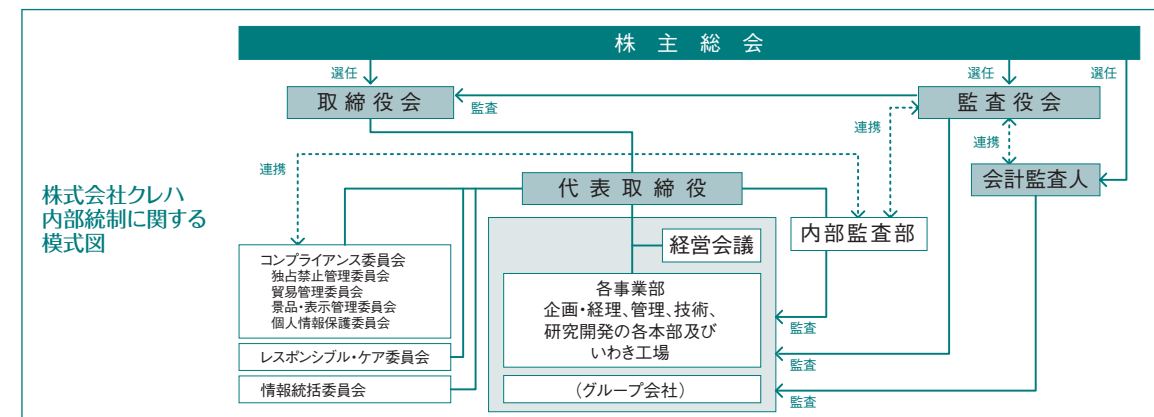
- 2) 内部監査部は定期的にグループ各社の業務監査を行ない、監査結果を経営会議に報告のうえ、改善事項や検討事項の早期実施を図るとともに、他部門への横展開を行なっています。
- 3) 「レスポンスブル・ケア活動」は、クレハ・グループとして行ない、「クレハ・レスポンスブル・ケア委員会」の下に、「オールクレハ・レスポンスブル・ケア協議会」を設置し、推進しています。

6. 監査役の職務を補助すべき従業員に関する体制と当該従業員の取締役からの独立性に関する事項

- 1) 監査役会との協議により、内部監査部の機能強化・拡充を図るとともに、監査役と内部監査部の緊密な連携により実効性ある監査に努めています。
- 2) 監査役の要請によりその職務を補助すべき従業員を置く場合は、補助従業員の権限、配属部門、指揮命令権等の明確化を行ない、取締役側からの独立性を確保します。

7. 取締役・従業員が監査役に報告するための体制および監査役の監査が実効的に行なわれることを確保するための体制

- 1) 取締役は事業運営に影響を与える重要事項、「コンプライアンス相談窓口」の通報状況について監査役にすみやかに報告するものとし、監査役は必要に応じて取締役・従業員に対して報告を求めることができます。
- 2) 当社は、監査役が取締役会の決議事項および報告事項の審議過程の把握ができる体制をとっています。また、経営会議へも監査役全員が出席し、重要案件の審議状況の把握ができる体制をとっています。
- 3) 取締役・従業員は、全ての稟議書・伺書の閲覧、内部監査部が監査した結果の報告、お客様相談室受付状況等の報告を監査役へ行なっています。
- 4) 監査役会は、代表取締役社長と定期的に、グループの業務執行体制および執行状況の監査結果の報告、問題点の指摘、改善事項の提案等を行なう会議を開催しています。



財務諸表(連結) 2006年3月31日現在

■ 連結貸借対照表 金額(百万円)

科目	資産の部	
	当期(第93期) 2006年3月31日現在	前期(第92期) 2005年3月31日現在
流動資産		
現金および預金	6,542	6,001
受取手形および売掛金	33,962	32,035
たな卸資産	20,390	18,693
繰延税金資産	2,261	1,588
その他	3,560	3,208
流動資産計	66,715	61,525
固定資産		
有形固定資産		
建物および構築物	24,092	24,450
機械装置および運搬具	21,504	20,625
その他	25,286	24,214
有形固定資産計	70,882	69,289
無形固定資産	1,774	2,091
投資その他の資産		
投資有価証券	32,792	29,223
繰延税金資産	2,612	1,321
その他	10,403	9,276
投資その他の資産計	45,807	39,820
固定資産計	118,463	111,201
繰延資産	24	—
資産合計	185,203	172,727

科目	負債の部	
	当期(第93期) 2006年3月31日現在	前期(第92期) 2005年3月31日現在
流動負債		
支払手形および買掛金	19,423	16,786
短期借入金	19,309	25,209
未払費用	4,113	3,792
賞与引当金	1,865	1,616
その他	12,493	10,310
流動負債計	57,203	57,713
固定負債		
社債	5,000	—
長期借入金	11,074	9,651
退職給付引当金	2,361	2,930
繰延税金負債	7,736	6,243
連結調整勘定	877	966
その他	1,363	1,375
固定負債計	28,411	21,165
負債合計	85,615	78,879
少数株主持分	1,229	785

資本の部		
資本金	12,460	12,460
資本剰余金	9,838	9,715
利益剰余金	67,545	64,083
その他有価証券評価差額金	11,921	9,554
為替換算調整勘定	▲209	▲616
自己株式	▲3,198	▲2,136
資本合計	98,357	93,062
負債・少数株主持分・資本合計	185,203	172,727

■ 連結損益計算書 金額(百万円)

科目	当期(第93期) 2006年3月期	前期(第92期) 2005年3月期
売上高	135,627	130,400
売上原価	96,188	91,987
売上総利益	39,438	38,413
販売費および一般管理費	29,730	28,158
営業利益	9,708	10,255
営業外収益	1,138	771
営業外費用	1,661	1,320
経常利益	9,185	9,705
特別利益	2,885	1,621
特別損失	4,253	3,276
税金等調整前当期純利益	7,817	8,050
法人税・住民税および事業税	4,477	3,254
法人税等調整額(減算)	▲2,089	113
少数株主利益(減算)	257	216
当期純利益	5,171	4,467

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 金額(百万円)

科目	当期(第93期) 2006年3月期	前期(第92期) 2005年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,307	12,437
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲9,648	▲9,592
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,088	▲4,067
現金および現金同等物に係る換算差額	▲25	48
連結範囲の変更による現金および現金同等物の増加額	—	13
連結子会社の決算期変更による現金および現金同等物の減少額	▲4	▲422
現金および現金同等物の増減額	540	▲1,582
現金および現金同等物の期首残高	6,001	7,584
現金および現金同等物の期末残高	6,542	6,001

■ 連結剰余金計算書 金額(百万円)

科目	当期(第93期) 2006年3月期	前期(第92期) 2005年3月期
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	9,715	9,715
資本剰余金増加高	122	—
資本剰余金減少高	—	0
資本剰余金期末残高	9,838	9,715
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	64,083	61,656
利益剰余金増加高	5,207	4,559
当期純利益	5,171	4,467
連結子会社の決算期変更に伴う増加額	35	91
利益剰余金減少高	1,745	2,132
配当金	1,655	2,084
役員賞与	88	47
在外子会社の従業員奨励福利基金提出による減少高	0	—
利益剰余金期末残高	67,545	64,083

■ 主な連結対象会社

■ 機能製品事業(全6社)

クレハ GmbH
※2005年12月1日 クレハ・ケミカルズ GmbH から社名変更
 クレハ・コーポレーション・オブ・アメリカ
※2006年1月1日に社名を「クレハ・アメリカINC.」に変更
 クレハ・ケービーエスINC.
※2006年1月1日に「クレハ・コーポレーション・オブ・アメリカ」と合併
 加古川プラスチック(株)
 レジナス化成(株)
 上海吳羽化学有限公司

■ 化学製品事業

ルトガース・クレハ・ソルベンツGmbH

■ 樹脂製品事業(全8社)

クレハプラスチック(株)
 クレハ合繊(株)
 クレハ エクステック(株)
 クレハロン・インダストリー-B.V.
 クレハ・ヨーロッパB.V.
 その他 3社

■ その他事業(全19社)

(株)クレハ環境
※2006年4月1日 吳羽環境(株)から社名変更
 (株)クレハ分析センター
 (株)クレハエンジニアリング
 クレハ建設(株)
 クレハ運輸(株)
※2006年4月1日 吳羽運輸(株)から社名変更
 錦商事(株)
 クレハサービス(株)
 その他 12社

財務諸表(単独) 2006年3月31日現在

■ 貸借対照表(単独) 金額(百万円)

資産の部		
科目	当期(第93期) 2006年3月31日現在	前期(第92期) 2005年3月31日現在
流動資産		
現金および預金	4,553	3,436
受取手形および売掛金	19,952	19,719
たな卸資産	14,074	12,790
その他	7,759	7,943
流動資産計	46,339	43,890
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,885	9,926
機械および装置	16,769	16,149
土地	6,978	7,328
その他	18,444	15,260
有形固定資産計	52,076	48,664
無形固定資産	1,467	1,930
投資その他の資産		
投資有価証券	39,183	33,975
出資金	3,018	3,013
その他	5,481	5,525
投資その他の資産計	47,683	42,514
固定資産計	101,227	93,109
繰延資産	24	—
資産合計	147,591	136,999

負債の部		
科目	当期(第93期) 2006年3月31日現在	前期(第92期) 2005年3月31日現在
流動負債		
買掛金	8,875	7,058
短期借入金	11,833	16,106
その他	14,987	12,227
流動負債計	35,695	35,393
固定負債		
長期借入金	8,562	7,701
その他	12,136	5,989
固定負債計	20,698	13,691
負債合計	56,394	49,084
資本の部		
資本金	12,460	12,460
資本剰余金	10,203	9,703
利益剰余金	60,707	58,685
評価差額金	10,251	8,508
自己株式	▲2,425	▲1,442
資本合計	91,196	87,915
負債・資本合計	147,591	136,999

■ 損益計算書(単独) 金額(百万円)

科目	当期(第93期) 2006年3月期	前期(第92期) 2005年3月期
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	81,799	80,202
売上原価	51,781	50,748
販売費および一般管理費	24,109	23,297
営業利益	5,908	6,156
営業外損益の部		
営業外収益	1,641	1,460
営業外費用	1,432	1,186
経常利益	6,117	6,431
特別損益の部		
特別利益	2,708	1,447
特別損失	3,258	2,337
税引前当期純利益	5,566	5,541
法人税、住民税および事業税	2,310	2,005
法人税等調整額	▲484	369
当期純利益	3,741	3,167
前期繰越利益	14,304	12,690
中間配当	734	567
当期末処分利益	17,311	15,290

■ 利益処分 金額(百万円)

科目	当期(第93期) 2006年3月期	前期(第92期) 2005年3月期
当期末処分利益の処分		
当期末処分利益	17,311	15,290
合計	17,311	15,290
これをつぎのとおり処分いたします		
利益配当金	926	935
[1株につき]	(5円00銭)	(5円00銭)
役員賞与金	50	50
合計	976	985
次期繰越利益	16,335	14,304
その他資本剰余金の処分		
その他資本剰余金	0	0
これをつぎのとおり処分いたします		
その他資本剰余金次期繰越高	0	0

トピックス

「NEWクレラップ」をリニューアル発売

「2005年日本パッケージングコンテスト」において「日本マーケティング協会賞」を受賞しました「NEWクレラップ」を、今年さらに改良いたしました。クレハカットの切りやすさを実感いただき、あわせてラップフィルムの巻き戻りを防止するため、「きちんとキレ窓」の設置、「巻き戻りストッパーのエンボス化」を行ないました。

この「NEWクレラップ」の使いやすさをテレビでお伝えするCMキャラクターには、大人気のクルリちゃんに加え、新しく妹のクルミちゃんが登場しました。学校を探検してラップをうまくかけられない人を助けてあげたり、おうちで新聞やケーキに穴をあけたりと元気よく活躍します。



「きちんとキレ窓」にご注目ください



NEWクレラップ



(左)クルミちゃん (右)クルリちゃん

機能製品の設備増強相次ぐ

「新中期経営計画Big Jump」におきまして、積極的な設備増強を行なっております。このうち、当期に生産能力の増強を行ないました2つの製品についてご紹介します。

PPS樹脂「フォートロンKPS」は、その耐熱性の高さから、金属の代替材料として、自動車の部品や、パソコン・携帯電話などの電気・電子分野で用いられる「スーパー・エンジニアリング・プラスチック」です。2005年4月、2006年4月と2度にわたって大幅に増強いたしました。また、合弁会社である米国フォートロン・インダストリーズにおきましても、2005年12月に生産能力を引き上げ、日米両拠点合わせてクレハ・グループとして世界最大の能力を維持しております。

ふっ化ビニリデン樹脂「KFポリマー」は優れた耐薬品性、電気的特性を持ち、リチウムイオン二次電池の材料、またプラントのバルブ、釣糸、浄水用のろ過膜などに使われております。2005年12月、いわき工場の生産能力を引き上げております。



フォートロン・インダストリーズ LLC



KFポリマー商品例

なんつうわい う ほう
南通匯羽豊新材料有限公司にて
塩化ビニリデン・コンパウンド製造設備竣工

当社が出資しております南通匯羽豊新材料有限公司（中国江蘇省南通市）において、ソーセージ包装フィルムの原料となる塩化ビニリデン・コンパウンドの製造設備が竣工しました。2005年9月の開業式では、当社をはじめとする株主3社の代表、南通市政府幹部、工場建設に携わった各社の代表でテープカットを行なうと大きな祝砲があがり、現場は華やかな雰囲気になりました。今後も中国のソーセージ市場は拡大が見込まれており、中国の食品包装材事業の拠点として大きな成長が期待されています。



南通匯羽豊新材料有限公司



開業式のもよう

いわき工場
「理科実験教室交流会」を開催

2006年1月28日、29日の両日、いわき工場にて、講師に埼玉県立春日部東高等学校・茂串圭男教諭と同校化学部員を迎え、夢化学21委員会主催の「理科実験教室交流会」が開催されました。

1日目は、地元小学校の児童とその父兄らが参加し、「液体窒素を使って超低温の世界を知ろう」などの実験を実施しました。2日目は地元小学校教諭、当社の実験指導担当者が参加し、実験教室実施についての意見、情報交換会などの交流を行いました。



液体窒素を使ってカーネーションを一瞬にして凍らせる

会社の概要

■会社の概要(2006年3月31日現在)

商号 株式会社クレハ
 本店 東京都中央区日本橋浜町3-3-2
 設立 1944年6月21日
 資本金 12,460百万円
 従業員数 1,349名(連結:3,746名)

■事業所

支店 大阪支店
 営業所 名古屋営業所、福岡営業所、札幌営業所、
 仙台営業所、いわき営業所(福島県いわき市)
 工場 いわき工場(福島県いわき市)
 研究所 総合研究所(福島県いわき市)
 生物学研究所(東京都新宿区)
 包装材料研究所(茨城県小美玉市)



ホームページ
 当社の概要は、こちらでもご覧いただけます。

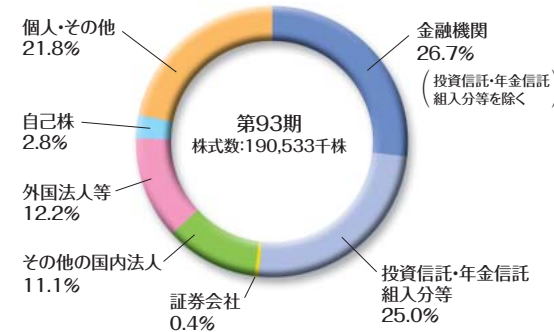
<http://www.kureha.co.jp/>

■役員および監査役(2006年6月28日現在)

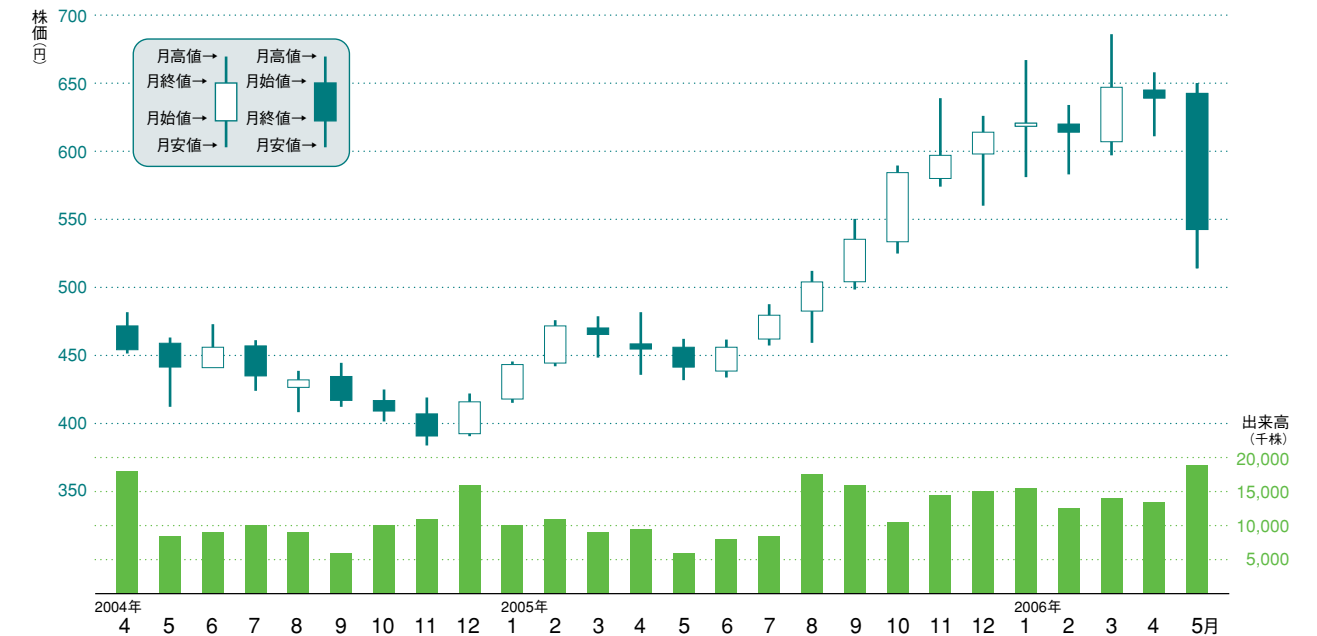
取締役会長	天野 宏
代表取締役社長	田中 宏
代表取締役副社長	加治 久継
代表取締役副社長	内山 正樹
代表取締役専務	富澤 藤利
常務取締役	藤井 雅彦
常務取締役	萩野 弘二
常務取締役	重田 昌友
常務取締役	岡本 恒夫
取締役	鈴木 直哉
取締役	岩崎 隆夫
取締役	水野 俊夫
取締役	宗像 敬吉
取締役	小林 豊
取締役	佐川 正
取締役	宮守 保
監査役(常勤)	高岡 龍一
監査役(常勤)	小杉 淳一
監査役(社外、常勤)	平野 恭昌
監査役(社外)	木村 和俊

株式の概況

■株式の所有者別構成比(2006年3月31日現在)



■株価および出来高の推移



■株式の状況(2006年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	608,932,000株
発行済株式の総数	190,533,909株
株主数	19,309名

■大株主の状況(2006年3月31日現在)

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,519	8.1
明治安田生命保険相互会社	13,746	7.2
東京海上日動火災保険株式会社	13,368	7.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,157	5.3
株式会社みずほコーポレート銀行	7,039	3.6
三共株式会社	5,830	3.0
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託A口)	5,051	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	4,685	2.4
丸紅株式会社	4,462	2.3
株式会社損害保険ジャパン	3,359	1.7

注) 当社は自己株式5,289千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。